

勝山左義長まつりツアー

日 時：平成24年2月26日（日）

午後1時～7時（予定）

参加費：1,000円

参加人数：30名（先着順）

ツアーの目的

絵行燈には、世相風刺や庶民の哀歓が川柳や狂歌としてうたわれています。その川柳には、今の政治を深く見つめ、多くの情報から言葉を見破る目がある、とお聞きました。今回は、その川柳から何を感じたか、参加者の皆さんで話し合うことを目的にツアーを開催いたします。

《スケジュール》

午後1時 社南公民館発（バス）→現地 2時頃～5時頃
→勝山ニューホテルにて夕食→午後7時頃 社南公民館着

《申込方法》お名前・住所・連絡先を社南公民館まで

Tel 0776(35)9559 fax 0776(35)9567 ✉ymina-k@mx1.fctv.ne.jp

【勝山左義長の特徴】

「勝山左義長」の記述が初めて登場する文献は、小笠原公の勝山入封時（1691年）にさかのぼります。

また、赤い長襦袢で女装した太鼓の打ち手が三味線、笛、鉦による軽快なリズムでお囃子に合わせて太鼓をたたく様や、カラフルな色彩の短冊による町中の装飾は、全国で「勝山左義長」だけの特徴です。



絵行燈には、辻行燈と大行燈の2つがあります。

辻行燈は、江戸時代の藩主小笠原公が、左義長まつりの「無礼講」として庶民の気持ちを川柳や狂歌にして行燈に託すことを許し、町内の辻々や櫓の周りに飾られました。現在も同様に、世相風刺や庶民の哀歓がうたわれ、ユーモアと皮肉をおりませ、それにあわせた絵が描かれています。

大行燈は、絵行燈の大きさの3倍ほどあり、櫓の下に掛けられます。また、狂歌が主体で描かれ、絵行燈と同じように絵とダジャレがおりませられています。

主催：市民憲章社南支部